

3月8日(月)  
@PGMI room3  
報告: 鵜飼友彦

---

福島県立医科大学地域家庭医療部より参加の鵜飼・星は「Family Medicine in Fukushima」と題して15分程度のプレゼンテーションを行った。まず、福島県の紹介、そして統計を用いた日本とシンガポールの医療の比較、医療崩壊と言われる日本の医療の現状を発表した。最後にそういった状況での家庭医療の役割について考え、2006年に発足した地域家庭医療部の紹介をした。

会場からは、世界の主要な問題の一つである、高齢化対策についてどういうふうに取り組んでいるか、我々がプレゼンテーションの中で用いた **Generalist** という言葉の定義について（シンガポールでは **General Practitioner** と **Family Medicine Doctor** がいる事がベースにあると思われる）といった質問がでた。

準備がおそくなり、前日までスライドをつくっていた始末だったが、当日はどうか台詞をみないで聴衆の顔をみて話すように努めた。シンガポールの聴衆は、特に日本とシンガポールの統計の比較に興味をもっているようであった。

